

棟方 志功並みの感性に感嘆！

お地蔵さんを園児が描く

先史古代研究会のウオークで

先史古代研究会の初春のウオークは、建国記念日＝旧紀元節の2月11日に行っている。今年は旧暦の小正月に当たり、寒かった。子供の頃は雪の積もった藪に入り竹を切り出して宮前の庭でドンドーさんを村中で行った。

正月飾りや注連縄で高く祭壇を作り、我が家の親父が神主の代役を務め、祝詞をあげる、火の粉は舞い上がる。書初めをどれだけ高く舞い上げるか、学問の上達を祈る幼児の願いがこもっていた。

焼き竹で一年間の采箸を作るおばさんや、竹の先に餅を挟み上手に焼き揚げるのは、上のお兄さん。部落中の子供は皆兄弟のようで、助け合った。焼餅は小正月を過ぎるまではなぜだか禁じられ、犯すべからずと身についていた。

今は新正月で飾りも少なく、雪もない。小正月も形だけ手を合わす。失いたくない風習も時代の波にはかなわない。そんな語りの中で、企画し案内役の井上秀男氏の案内で進んでいく。児島由加山の北参道の大鳥居、巨大楠木を神木にした岩椿神社に感嘆しながら参拝する。

岡山に宮内庁管理の陵墓が二カ所ありその一つが頼仁親王(後鳥羽天皇の第四皇子で1200～1247)がこの地で眠る。今は立ち入り禁止の五輪塔が静かに往時をしのばせる。

承久乱(1221)で鎌倉幕府に敗れ、父後鳥羽上皇は隠岐の島に、頼仁親王は新熊野(いまくまの＝倉敷市林)に配流されその子孫が児島五流尊瀧院・熊野神社として古刹が残る。

最後に案内された一等寺の住職は先代の父住職の冊子「一等寺の歴史」を紐解いて丁寧な解説を戴いた。本堂に棟方志功張りの石像絵画が何点か展示してあり見入った。



「毎年境内の裏にあるお地蔵さんを幼稚園児に描かせています」「子供の無心な気持ちが姿になって現れます」「大人では決して描けない表情です」と紹介いただく。

中央は井上さんのお孫さんの絵です。6才

十三仏のお気に入りをお孫さんに写生し帰ってから色彩をほどこしたもので、表情が仏さまと描く園児の、力点の入れ方に個性があって面白い。「写仏」の少し大きいものを見ると「いのうえ しゅんいちろう」と書いてある。

本日の案内役の井上さんに聞くと、「家(うち)の孫だ」と本人もびっくり。一同大きな満足で記念の散策になった。

File623 2017.29.2.12

A4 横組 2段